

多度地区小中一貫校整備事業 第7回開校準備委員会 会議概要

開催日時 令和4年11月19日(土) 14:00~15:30

出席委員 24名中 16名

1. 開会

2. 議事

(1) 経過報告

- ・地域連携部会より経過報告
- ・教育指導部会より経過報告

(2) 校名の最終審査について

① 第2次審査の結果報告と意見交流

事務局：(第2次審査の結果報告)

② 最終審査の投票

事務局：(最終審査の工程説明)

③ 最終審査の結果報告

委員長：投票の結果、「多度学園(たどがくえん)」が、新しい学校の校名最終案として選ばれた。
この校名にどのような思いを込めたか、発言頂ければと思う。

委員：子どもたちの投票結果は大事にしたい。また、「多度学園(たどがくえん)」は子どもにとっても呼びやすいと思う。校歌の作詞のとき、短い校名の方が形容詞などをのせやすく、校歌の広がり生まれるのではないかな。

委員：校歌についての話題も出たが、短い校名の方が、収まりがいいという意見もあれば、校歌に必ずしも校名を入れなければいけないわけではないから、それにとらわれなくてもいいのではないかなという意見も出た。個人的には、子どもたちの投票結果を尊重したい。

委員：第1次選考の話合いの時から、「学園」というとみんなが丸くなって集まるというイメージがあると話が出ていた。そのイメージを「多度学園(たどがくえん)」に込められると思った。

委員長：子どもたちの意見を尊重して判断した委員が多かったのかと推測する。これから、この校名に馴染んでいきたい。「多度学園(たどがくえん)」は表記が漢字とひらがなの併記になっているため、漢字表記、ひらがな表記どちらにするのか、委員の意見はいかがか。

(校名表記について、グループワークによる意見交流)

委員：漢字が良い。漢字表記の場合は土地名がはっきりしていて、地域への思いが込められていると感じる。一般通念上、社会に出た時の名前を考えたら、漢字が良いとなった。

委員：色々な確認が必要だと思うが、漢字、ひらがな表記の併記はできないのか。

投稿者の「校名に込めた思い」からは、あえてひらがなで表記したい理由があるとは読みとれず、まだ漢字が書けなかったためではないかと思われる。学齢等に応じて、漢字・ひらがなどちらでも使用できるよう、併記ができた方より良いのではないかという考えが出された。

委員：ひらがな表記だと柔らかいイメージになるという意見が出た。漢字だと意味があり、多度という漢字で愛着を持たれているのではないか。読み間違いを防ぐためにあえてひらがなにしている校名もあるかもしれないが、多度については、間違われることはないと思われる。グループの中では、漢字表記が良いという意見が多かった。

委員長：正式には漢字で「多度学園」とし、使う場面によってひらがな表記を運用することは可能である。正式名称を文部科学省に登録する際に、併記することはできないと思われる。学齢や場面に応じて、柔らかい雰囲気を使いたい場合はひらがな表記にすることとし、正式には漢字表記で「多度学園」という方向でまとめても良いか。

委員：(異論なし)

委員長：もう1つの確認事項として、「桑名市立多度学園」となるが、事務局の考えはどうか。

事務局：校名の応募要項を検討する際、「義務教育学校」という文言を入れるかについて協議し、自由応募となった。また、応募された校名案の中には義務教育学校を含む案もあったが、投票では選ばれなかった。これらの経緯から、校名に義務教育学校を後付けすることは考えていない。よって正式な校名は「桑名市立多度学園」としたい。

ただし、学校要覧やホームページなどにおいては、義務教育学校という校種を含めて表示することは積極的に取り入れたいと考えている。

今回の校名募集においては幅広い層の方から沢山のアイデアを頂いた。選ばれなかったアイデアが200数十あまりあるが、それぞれ思いを込めて考えられたものなので、今後、新しい学校の特別教室等の名称を考える際のヒントにさせてもらいたいと思う。

委員長：開校準備委員会として、漢字表記の「桑名市立多度学園」と決定させていただく。今後、教育委員会で改めて審議し、承認を得ることになる。

(3) 校章について

① 募集要項

事務局：(募集要項提案)

委員：提案には賛成だが、審査を白黒で行うならば、そのことを記載したほうがいいのではないかと。
また、郵送の締め切りについて、消印有効ではなく必着にした方が、事務局側が作業しやすいのではないかと。

事務局：応募については、カラーでも白黒でも受け付けるが、審査の時にはモノクロを予定しているため、その旨を要項に追加したい。

締め切り日について、1月10日という設定日については、子どもたちの冬休み後、学校で集めやすい点で設定した。1月10日必着という点も考えたが、年末年始の時期と重なるため、投函から配達までの所要時間がはっきりと分からない。このため応募した作品が無効になってしまう心配がある。期間内の郵送であれば全て有効にしたいため、消印有効としたい。

委員長：A 枠（一般）と B 枠（多度の子どもたち）は、最終審査では分からない状態で投票するのにか。

事務局：最終審査では、特に分けることなく提示したいと考えている。

委員長：子どもたちが提出した案に意見が傾きがちになるかと思うが、公平に審査するとなると、どの年代が提出したものか分からない方が良いと思う。

事務局：子どもたちが提出するものは、大人や専門分野の人が作成したデザインと比較すると、完成度は低いかもしれないが、イメージやアイデアは素晴らしいものが出てくることを期待している。もしそういったものが最終選考で選ばれれば、適切な方にデザインを補正していただき、整える予定である。審査ではそういった点も含みながら、公平な目で審査して頂きたい。

3. その他

委員：天王平遺跡の発掘作業の工事が進んでいるが、現状で古墳時代の土器などが出土されているかどうか、もし出ているのであれば、後世の子どもたちに残したいので、出土品は新しい学校の資料室に展示してもらいたい。天王平遺跡は考古学上、三重県の中でも有数の遺跡だと聞いている。現状を教えてください。子どもたちが4小プロジェクトの取り組みで見学したという報告を聞いたが、委員は見学できないのか。

事務局：文化財については、現在調査対象面積が8000平米、8反に対して、調査が半分強、進んでいる。夏場の変更指示がありやや遅れているが、今年度中の完成を目指している。皿や竪穴式住居跡が出ていると報告は出ているが、実施主体が他課であるため、新しい学校に資料を置くことに関しては、今後、庁内で協議していきたい。

事務局：見学可能時間の制約等はあるが、委員の見学も対応可能であると思われる。見学を希望される方には、当課で日時調節をする。

委員長：見学希望の委員は事務局に声をかけて、集約し、日程調整をしてもらうこととする。

委員：校名の最終案については一切公言しない方が良いのか。

事務局：11月25日に教育委員会で審議があるが、今回は非公開で開催される。その後、正式に承認されたら市長から記者発表される予定である。12月1日の桑名市のホームページの公表以降は、公言してもらって良い。

委員：事業者からの設計建設の提案について、11月10日が締め切り日になっていたが、事業者から参加申し出があったのか。もしなかったら、今までのことが生きてこない。どうなっているのか。

事務局：11月10日にデザインビルドの提案締め切りだった。詳細については、デザインビルド事業の進捗に支障をきたすため、伝えることができないが、事業としてはこのままのスケジュールで進めていくことが可能な状況である。

4. 閉会

以下余白